

Design supervision by Pioneer

ダウンファイヤ型バスレフエンクロージャキット

レゾンデートル
raison d'être

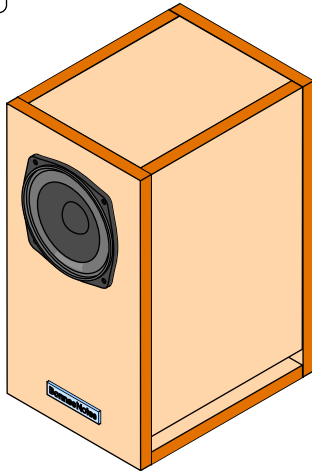
BR

BonnesNotes
KP-BSP006(-S)

共立電子産業オリジナル パイオニア製 BonnesNotes10cmダブルボイスコイルユニット「DVC-1000」使用
ダウンファイヤ型Bi-Directionalポート バスレフエンクロージャの組み立てキット

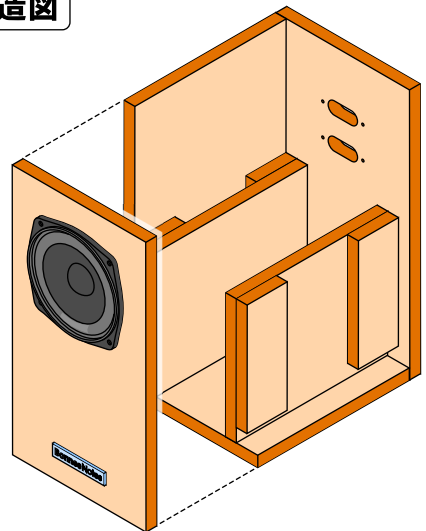
- ☆パイオニア監修、共立電子産業オリジナルエンクロージャ
 - ☆ダブルボイスコイルユニット(DVC-1000) 推奨(標準)エンクロージャ
 - ☆高精度カットされた12mm厚MDF材採用
- ※はんだ付けは不要です。

完成図



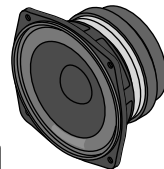
寸法：150(幅) x 194(奥行) x 282(高さ) mm

構造図



適合スピーカーユニット(別売)

◎ DVC-1000
(共立電子産業オリジナル パイオニア製
BonnesNotes 10cmダブルボイスコイルユニット)
6Ω + 6Ω 20W



DVC-1000

組み立てに必要な工具等

(別途用意してください)

- ◎ 木工用ボンド
- ◎ ブラスドライバ
- ◎ スコヤ(直角を出すための定規)
- ◎ 重し(またはハタガネ)

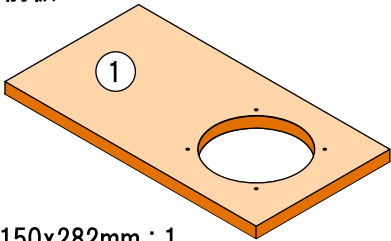
- ◎ 濡れぞうきん
(はみ出したボンドをふき取るのに使用します。
よく絞ってから使用してください)

部材一覧 スピーカー1本分の部材です。

※板材はすべて厚さ12mmのMDF材です。

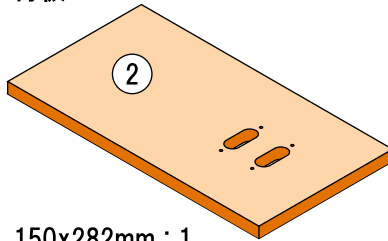
丸数字は組み立て図内の部材番号です。

(1) 前板



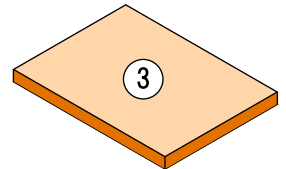
150x282mm : 1

(2) 背板



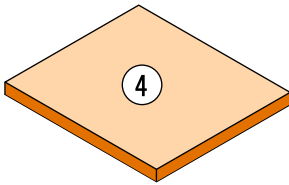
150x282mm : 1

(3) 天板



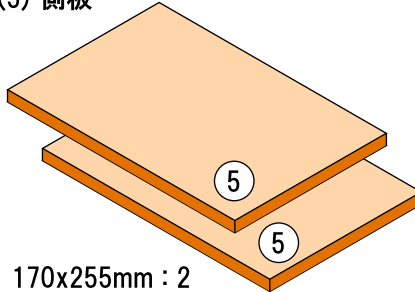
126x170mm : 1

(4) 底板



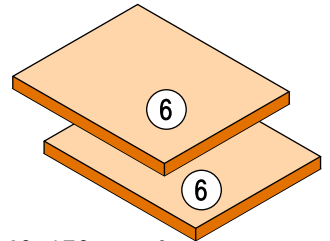
170x150mm : 1

(5) 側板



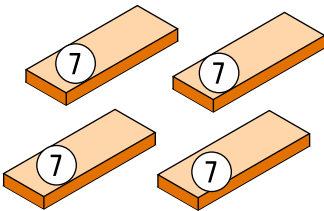
170x255mm : 2

(6) ポート板1

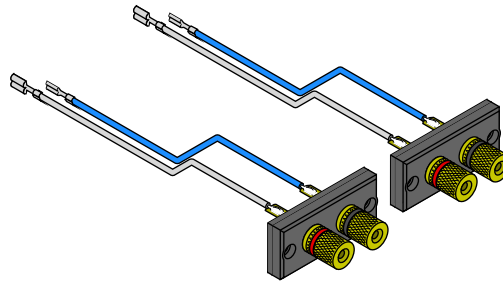


140x170mm : 2

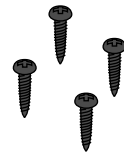
(7) ポート板2



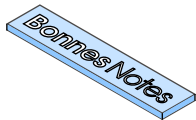
45x125mm : 4



スピーカーターミナル : 2
※接続ケーブル
(30cm)加工済み



3x16mm タッピングネジ : 4
(スピーカーターミナル固定用)



アクリル製銘板 : 1

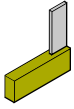
部品表 ※予告なく変更することがあります

品名	板の番号	規格/寸法	数量
1 前板	(1)	150x282mm	1
2 後板	(2)	150x282mm	1
3 天板	(3)	126x170mm	1
4 底板	(4)	170x150mm	1
5 側板	(5)	170x255mm	2
6 ポート板1	(6)	140x170mm	2
7 ポート板2	(7)	45x125mm	4
8 スピーカーターミナル		ケーブル加工済み	2
9 タッピングネジ		3x16mm	4
10 銘板		アクリル彫刻加工	1

組み立て方

重要

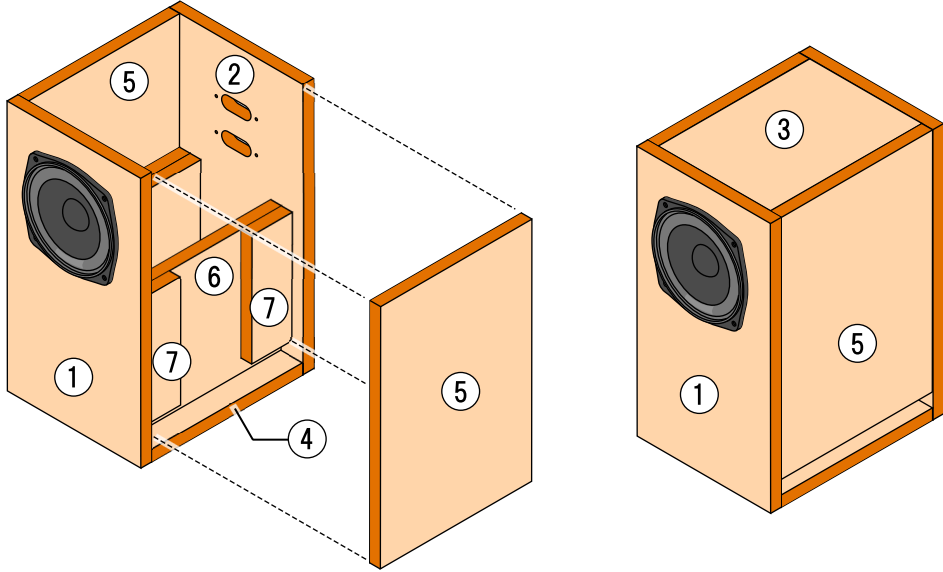
- ◎ 組み立て前に構造と全体の組み立て工程を把握し、仮組みを十分行って部材同士の位置関係を把握してから組み立ててください。
- ◎ スコヤなどで直角を出して組み立ててください。



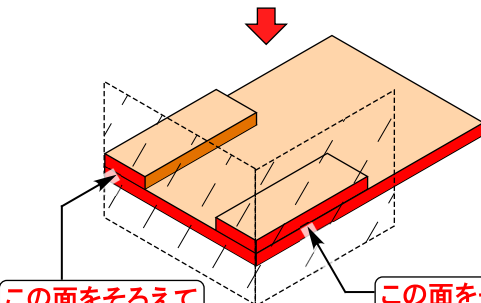
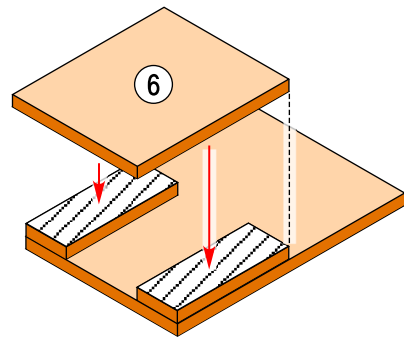
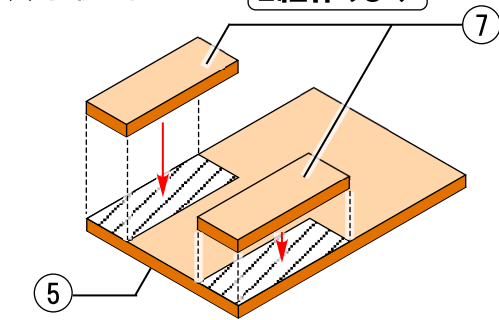
組み立て図に記入してある左の「ミニスコヤマーク」は、直角になっていることを確認すべき場所を意味しています。
(スコヤとは直角を確認するための定規です)

- ◎ 接着剤は接着面に均等に塗ってください。

構造図



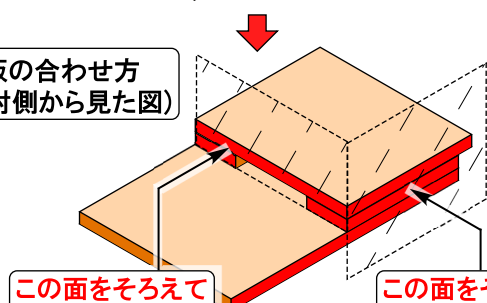
(1) 側板の組み立て **2組作ります**



この面をそろえてください

この面をそろえてください

板の合わせ方
(反対側から見た図)

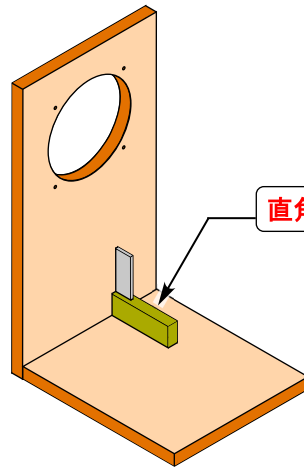
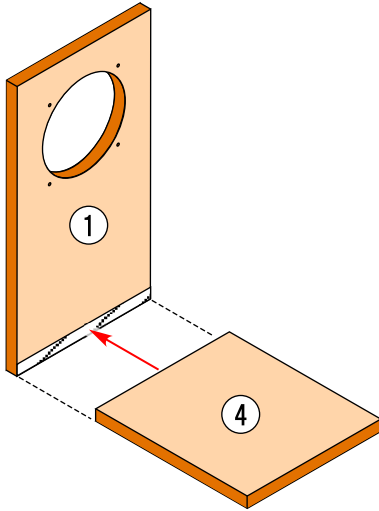


この面をそろえてください

この面をそろえてください

(2) 前板①と底板④を接着します

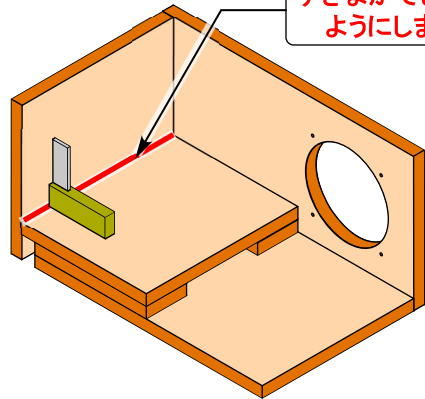
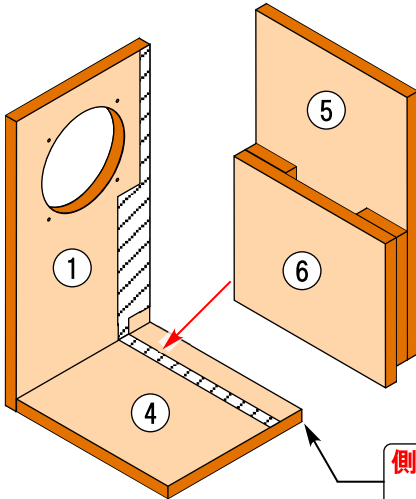
※後ろから見た図です



直角を出してください

(3) (1)で組み立てた側板の片方と(2)で組み立てた前板を接着します。

※後ろから見た図です

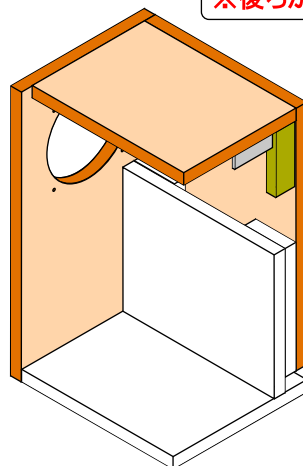
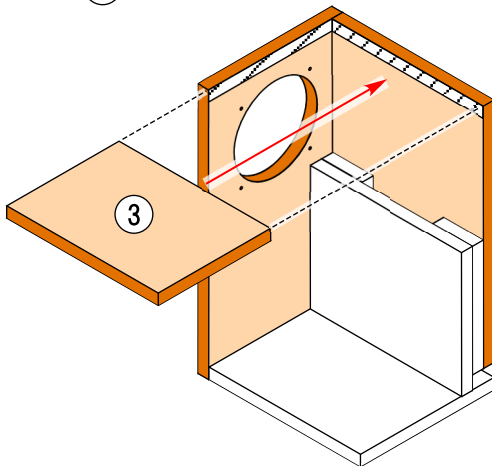


すきまができない
ようにします

側面をそろえて
ください

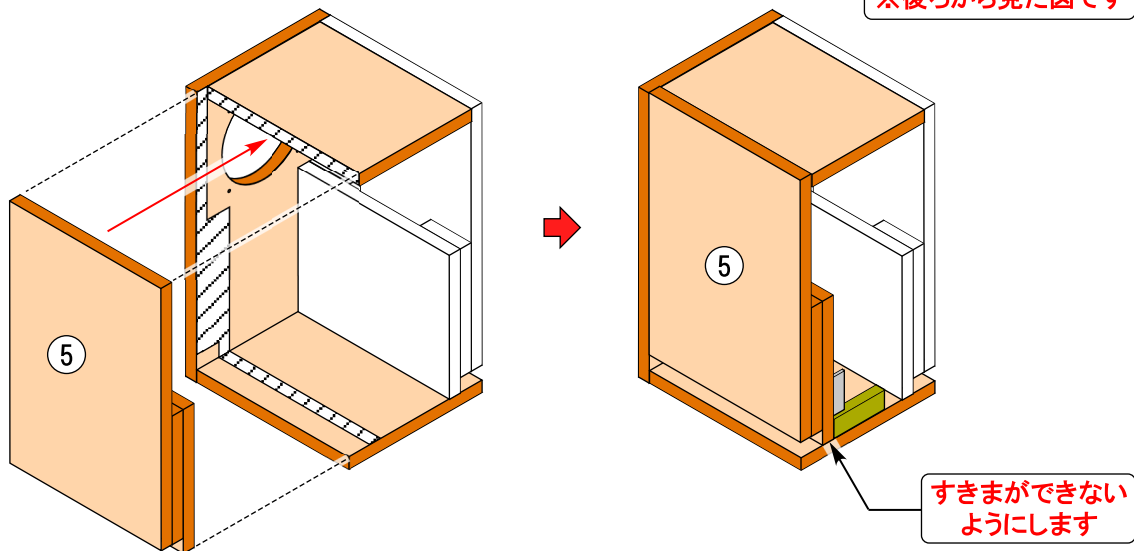
(4) 天板③を接着します。

※後ろから見た図です



(5) (1)で組み立てたもう1組の側板を接着します。

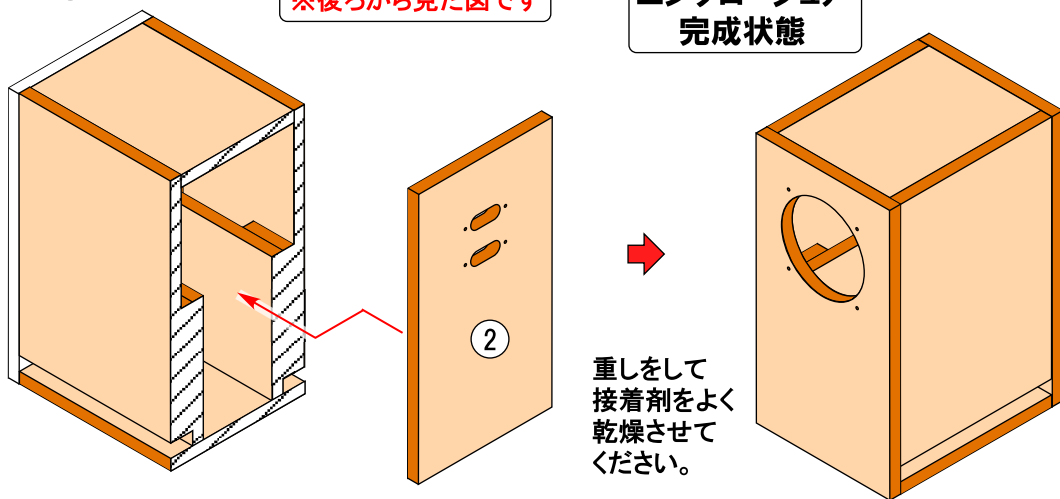
※後ろから見た図です



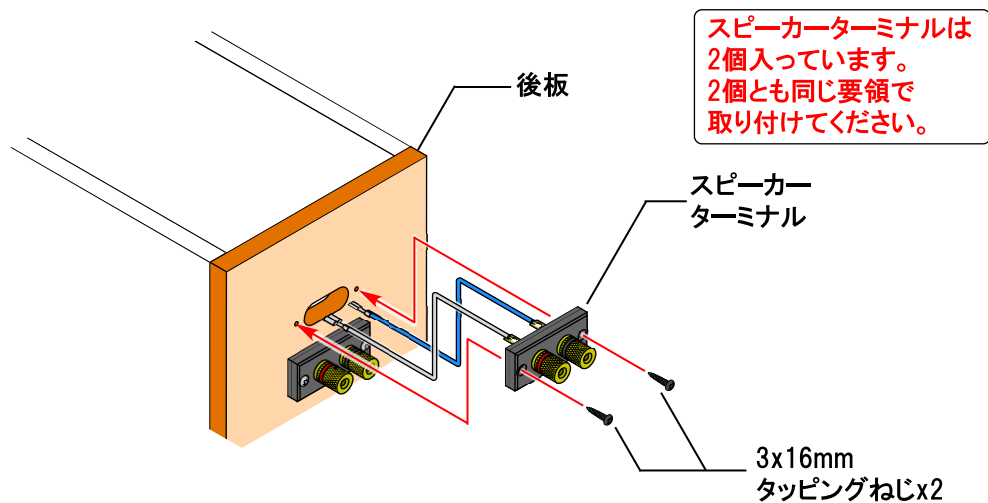
(6) 後板(2)を接着します。

※後ろから見た図です

エンクロージャ
完成状態



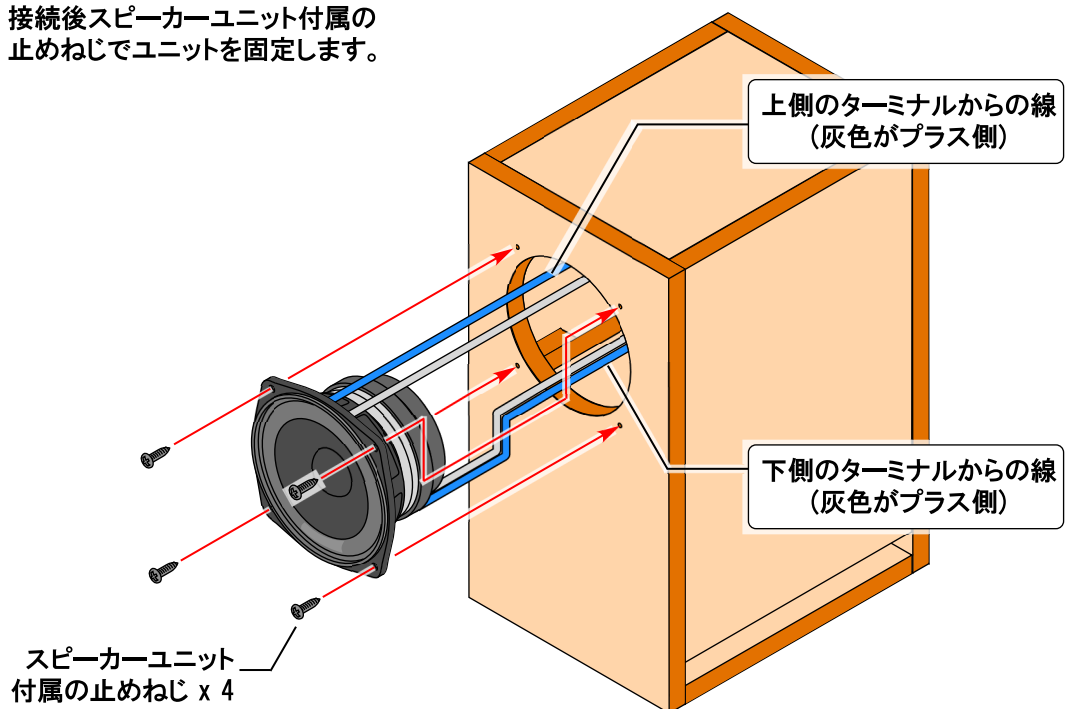
(7) スピーカーターミナルを取り付けます



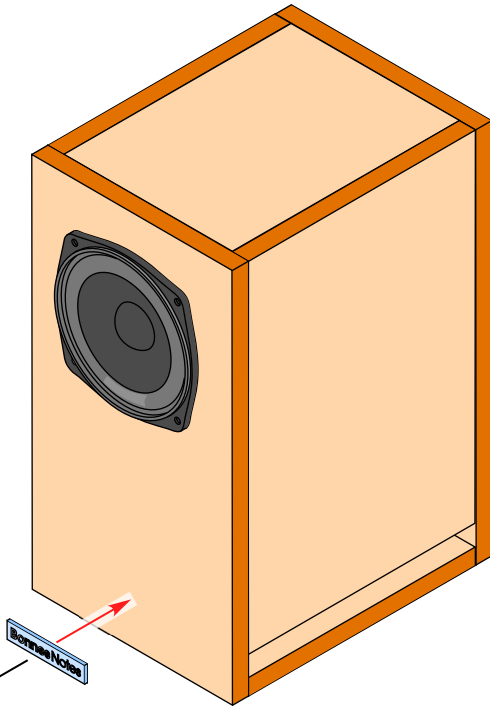
(8) スピーカーユニットを取り付けます。

スピーカーターミナルからの線を
スピーカーに接続します。

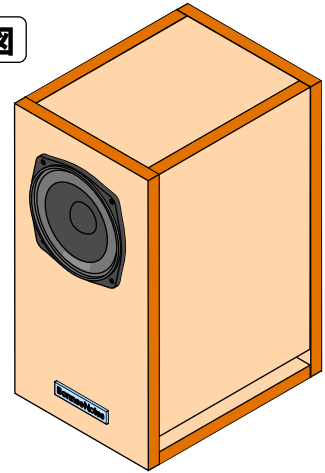
接続後スピーカーユニット付属の
止めねじでユニットを固定します。



(9) 付属の銘板を木工ボンドで接着します。



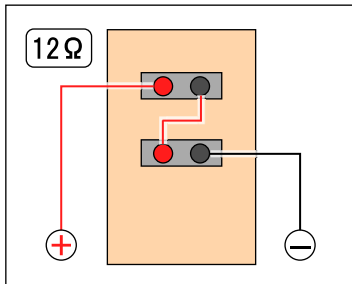
完成図



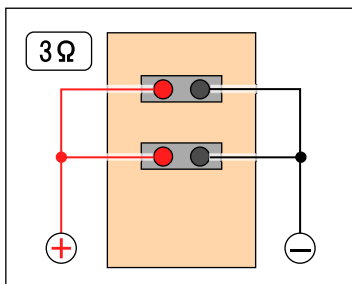
銘板(アクリル製)
お好みの場所に貼ってください。

応用例

(1) 通常のスピーカーとしての使用方法 (接続図は背面から見た状態で描いています)

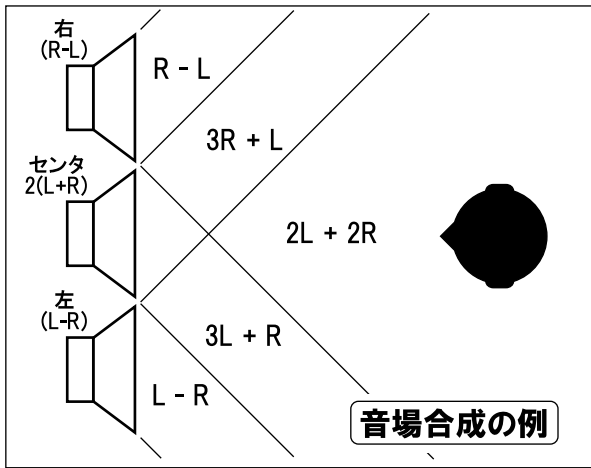


左図のように接続すると(直列接続)、12Ωのスピーカーとして使用できます。



左図のように接続すると(並列接続)、3Ωのスピーカーとして使用できます。

(2) 3台使用してマトリクススピーカーにする



本キットを3台マトリクス結線することで、サラウンド音場を空間合成できるマトリクススピーカーにできます。バランス出力(BTL)アンプにも使用可能です。

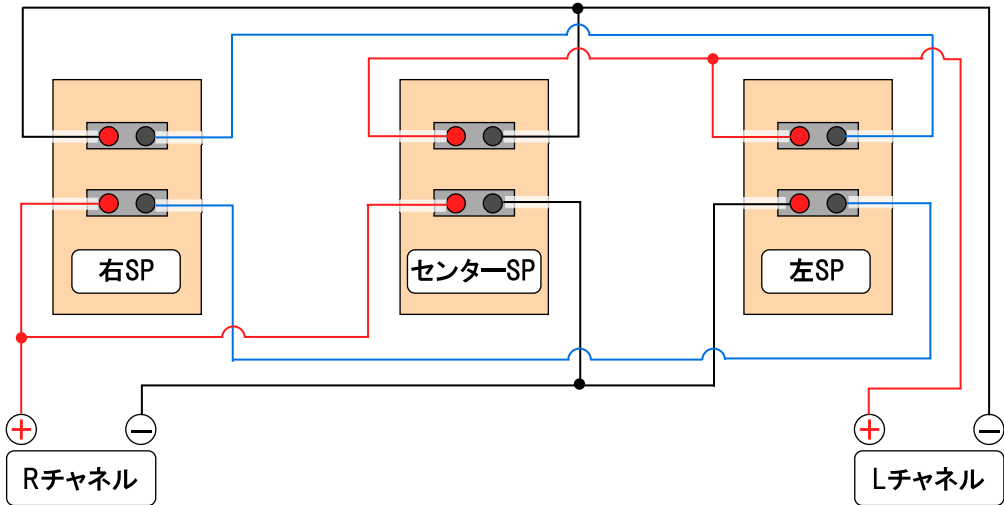
左右のスピーカはLチャンネルとRチャンネルの差の信号(L-RまたはR-L)で鳴らし、センタのスピーカはLチャンネルとRチャンネルの和の信号(2L+2R)で鳴らします。

LチャンネルとRチャンネルの差の成分と和の成分が空間で加え合わさることで、左図のようなサラウンド音場が合成されます。
(実際には部屋の反射などにより左図より複雑な音場になると思います)

接続図は次のページをご覧ください。

4Ωマトリクス結線

※接続図は背面から見た状態で描いています
※線の色は区別のため変えています



8Ωマトリクス結線 (正確には9Ωです)

※接続図は背面から見た状態で描いています
※線の色は区別のため変えています

